

附属小学校 創立 150 周年記念 卒業生アンケート集約



附属小 150 年の絆と教育の系譜

この資料は、滋賀大学教育学部附属小学校の創立 150 周年を記念して実施された、歴代卒業生によるアンケート回答を AI(NotebookLM)により分析・生成したものです。

1960 年代から 2010 年代まで幅広い年代の卒業生が、キャンプや合宿などの行事の思い出、熱心な教員や自由な校風といった学校の長所について詳しく語っています。回答の中には、独自の総合的な学習や実験重視の授業など、同校ならではの先進的な教育プログラムを高く評価する声が多く見られます。また、母校の伝統継承を願う期待や、困難を恐れず挑戦してほしいという在校生への温かなメッセージも綴られています。これらの言葉からは、長年にわたり育まれてきた学校への深い愛着と誇りが鮮明に伝わってきます。

質問項目

- ・ 附属で過ごした中で、一番の思い出は何ですか？
- ・ 附属の教育でよかったところは、どんなところですか？
- ・ これからの附属に期待することは、何ですか？
- ・ 在校生へのメッセージ等



一番の思い出



教育の良かったところ



未来への期待



在校生へのメッセージ

回答者

- ・ 1966 年(昭和 41 年)から 2015 年(平成 27 年)に中学校を卒業した同窓生 76 名(附属小学校のみの卒業生を含む)

実施方法

- ・ 2025 年(令和 7 年)11 月 22 日に開催した附属小学校創立 150 周年記念・大同窓会への出欠確認のフォームに、任意で自由記述により回答する質問項目を設けて実施。



1 卒業生が語る附属学校の「自由な校風」や「独自の教育スタイル」

卒業生のアンケートからは、附属学校が長年にわたって大切にしてきた「自由な校風」と、知的好奇心を刺激する「独自の教育スタイル」が鮮明に浮かび上がります。

(1) 自主性と個性を尊重する「自由な校風」

卒業生たちは、細かな制約に縛られず、個々の主体性を重んじる環境を高く評価しています。

- ・ **自主性の育成**：幼稚園から一貫して「自主性を重んじる教育」が行われており、何事も自分たちで考えるように教えられました。
- ・ **個性の尊重**：「友達とは違う、自分ならではのアイデア」が大事にされ、個人の個性を尊重して伸ばしてくれる校風がありました。
- ・ **のびのびとした環境**：「細かな制約なしに、のびのびと学生生活を送ることができ

た」という声や、間違ったエリート意識を持たず自由にチャレンジできる雰囲気があったと述べられています。



(2) 先進的で実験的な「教育スタイル」

教育学部の附属校として、常に時代の先端を行く実験的な授業が行われてきたことが大きな特徴です。

- **先進的なカリキュラム**：「他校にない先進的な教育」や「時代の最先端の教育」を受けられたことが、卒業生の誇りとなっています。
- **BIWAKO TIME(びわ湖タイム)**：附属独自の総合学習として多くの卒業生の記憶に残っており、分野横断的に自分の興味のあることを自由に勉強できる機会となりました。
- **体験・実験の重視**：特に理科の授業では毎回のように実験が行われ、「問題提起、実験、考察、まとめ」というプロセスを通じて能動的に学ぶスタイルが確立されていました。



(3) 自ら考え、表現する力の育成

単なる知識の習得ではなく、**探究心**や**表現力**を養う独自の取り組みが挙げられています。

- **探究する授業**：様々な場面で「なぜだろう？ どうしてだろう？」と好奇心をくすぐり、自ら探究する過程が授業に組み込まれていました。
- **意見表明の機会**：自分の考えを表明する機会が多く、意見を言うと肯定してもらえる環境が、自信を持って未来へ進む糧となっています。
- **柔軟な学習形態**：班ごとのグループ学習や話し合いが活発で、時には時間割の枠を超えて一つの教科（合奏のレコード作成など）に集中して取り組むといった、柔軟な授業運営も行われていました。
- **えらぶ学習**：2013年の卒業生からは、自分で選択して学ぶ「えらぶ学習」というスタイルも独自の思い出として挙げられています。

このように、附属学校は「児童・生徒が主体となり、自由な発想で未知のことに挑戦できる場」としての役割を果たし続けてきたことがわかります。



2 卒業生から在校生へ贈られたメッセージには、どのような共通点がありますか？

卒業生のアンケートには、在校生に向けた温かく力強いメッセージが数多く寄せられています。それらには、附属校での学びを糧に社会へ出た先輩たちならではの、いくつかの

重要な共通点が見て取れます。

(1) 「いまを生きる」ことの大切さ

最も顕著な共通点は、附属の精神ともいえる **いまを生きる** という言葉の実践を促すメッセージです。

- 「自覚と誇りを持って『いまを生きる』という恩師の言葉を引用し、今の時間を大切にしよう伝える声があります。
- 「その歳、年代で全力で取り組める何かを見つけてください」といったアドバイスや、「学生の今しかできないことを楽しんで、全力で青春してください」というエールが送られています。
- 「今この瞬間を大切に過ごしてください」というメッセージは、世代を超えて共通しています。

(2) 失敗を恐れない挑戦とチャレンジ

変化の激しい未来に向けて、「挑戦」や「チャレンジ」を促す言葉も非常に多く見られます。

- 「挑戦を恐れず、仲間を大切に、広い視野を持って！」という励ましや、「やりたい事を失敗を恐れずにチャレンジして下さい」というメッセージが目立ちます。
- 「自分の可能性を信じてトライしてください」と、在校生の無限の可能性を肯定する言葉も寄せられています。
- 「上手く行ってもいかなくても大丈夫」と、結果を恐れずに取り組むこと自体の価値を説く卒業生もいます。

(3) 一生ものとなる仲間との絆



附属で過ごす中で得られる「友人との繋がり」を大切にしてほしいという点も、大きな共通点です。

- 「何十年たっても繋がりを保てる友達関係を築いてください」や「ここでの出会いはきっと一生ものになります」と、学校生活で得られる絆の重要性が強調されています。
- 「気心知れた仲間とのびのび過ごしてください！」と、仲間と共に過ごす時間の尊さを伝える声があります。

(4) 附属生としての誇りと自覚



名門校としての「誇り」を持ち、広い世界へ羽ばたいてほしいという期待も共通しています。

- 「附属の卒業生であることは、一生の誇りになります」や「母校であるということ」を誇りに、自信をもって、未来にむかって進んでいってください」といった言葉が見られます。
- 「小ちんまりまとまらず…大きく羽ばたいてください」や「グローバルな感覚を持ち、大きく、自由に羽ばたいてほしい」と、広い視野で未来を切り拓くことを願うメッセージが多く寄せられています。

(5) 自由でのびのびとした成長

附属の自由な校風を反映し、「自分らしくあること」を認めるメッセージも特徴的です。

- 「好きな事をのびのびやして下さい」や「間違ったエリート意識を持たないで、楽しい学校生活を送って欲しい」といった、個性を尊重するアドバイスが含まれています。
- 「物事を俯瞰的に観て欲しい」という、知的好奇心や多角的な視点を持つことを勧める言葉もあります。

これらのメッセージは、附属での経験が卒業後の人生において大きな支えになっているという実感に基づいた、未来の後輩たちへの深い愛情に満ちています。



slide 1

卒業生の声が語る、150年の軌跡

1966年から2015年まで、半世紀にわたる卒業生アンケート。
その回答を紐解くと、時代ごとに色鮮やかな思い出が交錯しながらも、
附属ならではの「変わらぬDNA」が浮かび上がってきました。

1966
1974
1985
1990
2006
2015

NotebookLM



slide 2



slide 3





slide 4

卒業生が証言する「附属教育の3つのDNA」



slide 5

これからの附属へ：伝統と革新の両輪

守り抜くべき伝統

帰ってこられる心の拠り所

「いつ帰ってきても変わらぬ母校であってほしい」(2010年)

「少人数でファミリー的な所」(1990年)

「静かな環境で勉強にもしっかり取り組める教育環境」(1990年)

切り拓くべき未来

時代を先導する教育の探求

「次代を切り拓く先導的な教育、我が国の教育をリードする人材育成」(1979年)

「グローバルな意識を育む教育」(1990年)

「伝統の継承と変革をバランスよく」(1980年卒) —
これこそが、すべての卒業生が共有する未来への願いです。

NotebookLM



slide 6

世代を超えて受け継がれる、一つの言葉

(1979年卒)
「いまを生きる。
人生のすべてのステージで
支えになる言葉です。」

(1979年卒)
「今を生きるの深い意味が
いつか分かるので
今から心に刻んで下さい」

「いまを生きる」

(1991年卒)
「今を生きる。」

(2011年卒)
「学生の今しかできないことを
楽しんで、全力で青春してください!
『いまを生きる!』」

時代が変わっても、附属生の中には常にこの哲学が脈打っています。

NotebookLM



slide 7

在校生へ贈る、未来へのエール

「上手く行っても
いかなくても
大丈夫!」

2006年卒

「間違ったエリート意識を
持たないで、
楽しい学校生活を
送って欲しいです」

1979年卒

「君たちを
応援している人は
想像しているよりも
たくさんの方がいます」

1985年卒

「ここでの出会いはきっと
一生ものになります。
毎日を大切に
過ごしてください」

2012年卒

「社会に出てからも
附属の繋がりは
必ず役に立ちます」

1979年卒

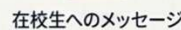
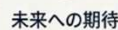
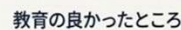
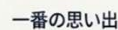
「よく学び、
よく遊び」

1980年卒

NotebookLM



1966年から2015年まで、幅広い世代の卒業生から寄せられたアンケート。そこにあったのは、時代や社会環境が激変しても決して色褪せない、驚くほど共通した「附属のDNA」でした。

[illegible][illegible]

1979年卒 卒業生アンケートより

懐かしい友や恩師との再会。そして、新たな絆が生まれる場所へ。

滋賀大学教育学部附属小学校 創立150周年記念 大同寮会

